

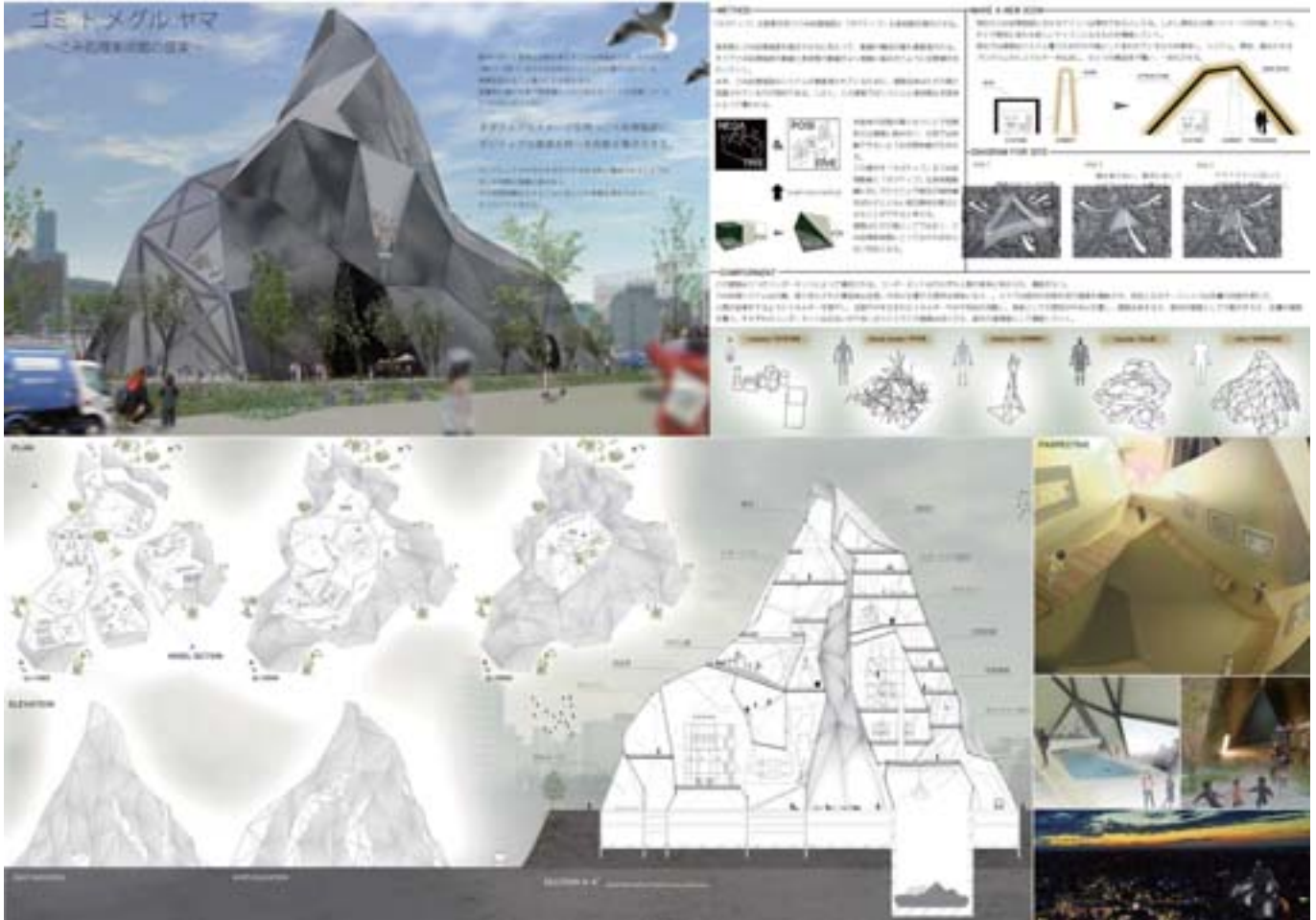


# ゴミトメグルヤマ ~ごみ処理美術館の提案~



深澤 衛 (ふかざわ まもる)  
千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科

JIA全国出品作品



都市において重要な役割を果たすごみ処理施設だが、人々からは「臭い」「汚い」などの先行的なイメージから避けられている。

地域住民は近くに建つことを望まない。

意識的に避ける事で無意識にごみと向き合うことを放棄しているのではないだろうか。

ネガティブなイメージを持つごみ処理施設にポジティブな要素を持つ美術館を複合させる。

コンプレックスの中のネガポジが3次元的に構成されることでお互いの空間は複雑に絡み合い、ネガポジの相互関係は新しい関係性を生み出す。

この建築が作り出す空間体験は人々のごみに対する意識を変化させていく。

そこはゴミと巡る山。

## 講評

ネガティブなイメージをもつごみ処理施設を大胆にも都市の真ん中につくるという意欲作である。現代の都市に必要な不可欠なごみ処理施設は、現在街の中のネガティブな存在として住民の意識から遠ざけられている。この作品は、美術館というポジティブなプログラムをコンプレックスするという方法で、住人のもつネガ、ポジの意識を軽やかに反転させ、人々の集まる街のシンボルとしてこの建物を存在させようとする秀逸な提案である。

多面体で構成されるヤマのような形態は、街のアイコンとして人の意識に入り込む魅力を感じた。また、ネガ（ごみ処理施設）と、ポジ（美術館）の空間が、絡み合いながら作り上げる3次元的な内部空間も複雑に構成され、相反する2つの空間を有機的に結びつけている。2つの施設が同時に機能するように、機器の配置、動線計画の緻密な設計も評価できる。今まで目を背けてきた施設に改めて目を向け、建築の存在の仕方を見直すことで、人々の意識を変えていくことが可能であれば、このような建築を考える姿勢は、現代社会にとって非常に重要である。

(審査委員：佐々木 達郎)

